



まちのできごと・マンスリーでお知らせします。

1/24 千歳の「おいしい」が大集合！
ちとせ特産品祭りに賑わい



道の駅サーモンパーク千歳で1月24、25日の両日、「千歳市空港開港100年記念 ちとせ特産品祭り」が開催されました。会場では、市内事業者の自慢の逸品をお試しで味わえる「特産品の試食会」や、対象商品の購入で参加できる「おたのしみ大抽選会」など、千歳の魅力を体感できる企画が盛りだくさん。田中製館の「すかかも」を購入し、抽選会で豚肉の山本の「もつ鍋セット」を引き当てた小笠原 奏介さん（千歳小2年）は、「いつも運がある方なので、自信を持って引いた」と笑顔を見せました。すかかもについては「スイートポテトのような味わい。お餅と一緒に食べたらもっとおいしいのでは」と、自己流の食べ方にも想像を膨らませていました。

人のうごき

《総人口》
96,958人（-49）
男性 49,360人（-26）
女性 47,598人（-23）
《世帯》52,772世帯（-14）

（ ）内は、前月との比較です。

2-1
現在

広報ちとせのおわびと訂正

広報ちとせ1月号12ページにて、こども家庭課こども家庭係の電話番号を誤って記載していました。
誤：☎(24)0133
正：☎(24)0113
おわびして訂正します。

1/23 太宰府天満宮から「梅の親善使節」来訪
春の訪れ、一足早く



日本有数の梅の名所、太宰府天満宮から「梅の親善使節」が来道し、紅白の梅の花を市に贈呈しました。太宰府天満宮は、花を通じた交流を市と昭和32年から続けており、毎年1月には境内にある約6,000本の梅の木から状態のよいものを選抜し、届けています。この冬、太宰府では暖かい日が続いたことから、今年の梅の花は例年よりも開花が進んだ五分咲きの状態で到着。市役所第2庁舎の入り口に飾られ、豊かな香りと鮮やかな紅白色で来庁者を出迎えました。巫女の犬塚 協子さんと行弘 弥卯さんは、「北海道は寒い日が続いていますが、梅の花をご覧になった皆さまに、一足早い春の訪れを感じていただけたら」と話しました。

手づくりの着陸場から新千歳空港へ開港100年の歴史を振り返る

ちとせ空港

Vol.34 新千歳空港 開港までのあゆみ

百年物語

時代に翻弄された空港建設工事
昭和48年に示された基本計画に基づき、千歳飛行場の東側では、新千歳空港の建設工事が開始しました。

や用地買収の難航などが重なり、工事は遅れに遅れ、昭和53年12月1日予定としていた供用開始日は、大幅な先送りを余儀なくされました。

またこの間、空港ターミナル施設に関する調査研究が進み、台形型としていたエプロン（駐機場）の形状を再考する必要があることが明らかになりました。

こうした状況を受け、運輸省は昭和60年11月、当初の新千歳空港整備基本計画を抜本的に変更しました。変更計画では、工事を第一期から第三期

その後の工事は順調に進み、昭和62年12月には1本目の滑走路であるA滑走路が完成。年間旅客数も100万人を突破しました。そして着工からおよそ13年の歳月を経て、ついに新千歳空港が開港の時を迎えます。

までの3段階に分けて行うこととし、第一期の供用開始日を昭和63年7月20日と設定しました。

また、年間の旅客数の予測を3600万人から2462万人へと下方修正し、エプロンの形状を台形から半円形へと変更しました。

1/6 JALから氷濤まつり制作スタッフへ
温かいスープで陣中見舞い



国立公園支笏湖運営協議会が、千歳・支笏湖氷濤まつり開催に向けた取り組みを発信する勉強会を開催。氷像の制作現場を公開しました。氷像は、支笏湖の湖水を散水機で吹き付けて作られており、制作スタッフの松澤 直紀さんが会場を一周しながら、参加者に制作手順を解説しました。勉強会には、日本航空株式会社（JAL）千歳支店のスタッフも参加。制作スタッフへのねぎらいの意を込め、同社の航空機内で提供しているスープを差し入れました。JAL千歳支店の鈴木 美輝 支店長は、「昼夜、年末年始を問わず仕事をされているスタッフの皆さんにスープをお届けして、開幕に向けて立派な作品を作り上げていただきたいという思いでお邪魔しました」と話しました。

1/14 北陽小と勇舞中の通学路に新信号機
児童・生徒が渡り初め



東8線と北信濃中通の交差点に信号機が設置されたことを記念し、市は渡り初め式を行いました。交差点は、北陽小学校と勇舞中学校の校区内に位置しており、登下校する児童・生徒の往来が多いことから、地域の要望を受け平成30年以降、北海道公安委員会へ設置の要望を続けてきました。渡り初め式は両校の始業式の日に合わせて行い、教職員や地域の人々などが参加。横田市長、千歳警察署の高橋署長のあいさつのち、出席者らが登校していく児童・生徒を見守りました。保護者の一人は、「信号機がついて一安心。子どもたちは、事故のないように通学してくれたら」と話していました。

1/7 信頼と期待に応え、職務にまい進
千歳市消防出初式



千歳市消防本部と消防団が、新年にあたり消防職・団員の士気高揚を図る「千歳市消防出初式」を北ガス文化ホールで開催しました。式典では横田市長による部隊観閲を行ったほか、長きにわたって消防職務に貢献した職員や団員を表彰しました。ステージには、千歳機甲太鼓と千歳一輪車クラブも登壇。見事なパフォーマンスを披露し、会場を盛り上げました。最後に坂口 忠義 消防長が、新年の決意を表明。「このまちを守るという使命を胸に、今年が災害のない平穏な一年であることを願いつつ、市民の信頼と期待に応えるため、一丸となって職務にまい進する」と宣言しました。